

福島県環境審議会第1部会（H22.8.30）における意見等に対する対応整理表

○全般について

番号	質問者	内容	事務局対応
1	福島委員	冒頭の計画の改定の趣旨の中に、現計画の全体的な評価を載せていただきたい。	全体的な評価と課題を記載することとする。
2	長澤委員	現計画であまり成果が達成できなかったものなどが総括されたものが改定の趣旨に入るとよい。	全体的な評価と課題を記載することとする。
3	大越委員	施策の展開の(1)「自然循環の保全」の内容がこの①から⑨まで続いており、個々に書かれているため全部が別のことのように受け取めた。流れがもう少し分かるように図式化等して、その個別の説明があるといい。	「6 施策の展開」に施策全体の図を記載し分かりやすく示すこととする。
4	和合委員	次期計画の数値目標の設定の仕方はどうなるのか。現行の平成22年度の数値目標を生かしながら目標を入れるのか、それともこの数値は生かさなで改めて数値を捉えるのか。	各部局と調整の上、数値目標の見直しや新規追加の設定をすることとする。
5	引地委員	自然循環は気候変動等に影響されて色々変わってきている。それに対して、どう対応しないといけないか、何が一番重要になるのか、生態系にどう影響を与えているのかを見て、循環型社会がどうあるべきかを考えていくことになるので非常に難しい面もある。 資源循環は、バイオマス燃料や太陽光の資源エネルギーなど、色々な資源の有効利用により、周りに影響や負荷を与えない資源の有効利用を考えるなど、循環型社会を考える上では、いくつかの方向から見る必要がある。	現状と課題や施策を横断的に捉え、総合的に施策を進めていくこととする。
6	稲森部会長	環境基本計画と整合するようお願いする。 また、言葉・単語の使い方を分かりやすくしないと普通の人理解しづらい。	他計画との整合性を取りながら改定することとする。
7	後藤委員	県が生物多様性基本計画を作るのであれば、あえて循環型社会の計画に自然循環とか生物多様性というのを大きな柱にしなくてもいいのではないかと。	本県が目指す循環型社会は資源循環のみならず自然循環まで捉えた広範囲な概念であり、本県の特徴であるため、本計画においては、「自然循環が保全された社会」の実現に当たって、生物多様性の保全などの施策を展開することとする。
8	引地委員	人間が自然に適正な共生が出来ていない、だから自然環境が維持しにくい状態を作ってきた。自然に優しい接し方が必要になってくる、そういうことを考えた自然循環の保全が大切になる。	施策ごとに現状と課題を捉え、より一層環境への負荷低減を図っていくこととする。
9	後藤委員	3つの柱の相互の関係について改めて記述するとか工夫ができるのでは。 特に一番目と二番目、自然循環の保全というものを基礎として成り立ち、その上に人間のいわゆる人工的な循環・リサイクル。自然の循環がサイクルで、それを人工的にするからリサイクル、それをサイクルの形に近づけていくのが、その一つの方向であるという柱間の関係。 二番目の柱は一番目の柱のモデルにそれを近づけていく、今まであまり明晰に言及されなかった間の関係をきちんと書いていくというのも手である。 三番目の柱のライフスタイルは個人に集約するところは残ってもいいが、やはり個人ではいかんともしがたい部分もあり、社会のシステム、経済のシステムを変えていく、これを明示的に柱として立てていくのは対比としてはいい。個人にあまりスポットが当たらない、当てつつ社会全体の仕組みも変えていくところを分かるようにしたい。	3つの柱の相互の関係については、福島県が目指す循環型社会に図で示すこととする。
10	渡邊和子委員 (書面による意見)	福島県の計画が市町村行政へきちんと浸透し実行できる(実行する)内容であるべきと考える。 ※ 例えば〇〇市では会議ではいつもペットボトルが使用されている(きゅうすや冷茶などの使用を望む)。小さなことではあるが、計画の推進にあたって行政が進んで取り組むべきと考える(行政がなすべき役割を認識してほしい)。 ※ 行政が何事に対しても取り組む真剣な姿勢を県民・市民・町民・村民に示めさなければ県民全体に届かない。	本計画を改定後、各市町村に計画を示し、市町村の立場から循環型社会形成に向けた取組みを促進するよう働きかけることとする。

○サブタイトルについて

番号	質問者	内 容	事務局対応
11	長澤委員	(自然循環が保全された社会の長期的サブタイトル) 「多様な自然環境の保全と継承」。保全だけではもう間に合わない、保全とそれを継承していくことが必要ではないか。	様々な自然環境が保たれ、30年後に継承されているという意味も含めて、「多様な自然環境が保全された社会の実現」として整理する。
12	長澤委員 (書面による意見)	(自然循環が保全された社会の長期的サブタイトル) ・自然環境の保全を最優先する	自然環境の保全を最優先した結果について、「多様な自然環境が保全された社会の実現」として整理する。
13	大越委員	(自然循環が保全された社会の長期的サブタイトル) 自然人も両方が生かされていないといけない。それは30年後に向けても大事であるが、もっと付加されるものも必要になってくると思う。	自然環境の保全には、人が自然に与える環境負荷を低減し、互いに良好な状態を維持している状態の意味も含めて、「多様な自然環境が保全された社会の実現」として整理する。
14	長澤委員	(適正な資源循環が確保された社会の長期的サブタイトル) ごみゼロ社会ではなく、低炭素社会の実現された社会だと考える。低炭素社会が実現された社会という言葉を入れるかどうかは少し疑問あるがそう思う。	再生可能な資源の地域内での利用やバイオマス系循環資源の利用などは、低炭素社会に向けた取組みや廃棄物の減量化に繋がることから、低炭素社会とごみゼロ(ごみのない)社会を合わせたイメージとして、「地域循環システムの形成による低炭素社会の実現」として整理する。
15	長澤委員 (書面による意見)	(適正な資源循環が確保された社会の長期的サブタイトル) ・低炭素社会の実現 (この項目のキーワードは「～社会」となっていますが、ことばの整理はどう考えていますか。)	・低炭素社会の実現については、14番の事務局対応に同じ。 (「～社会」については、他のサブタイトルも同じく「～社会の実現」として整理することとする。)
16	大越委員	(適正な資源循環が確保された社会の長期的サブタイトル) 低炭素社会だけではなく、やはり全体的に色々なことを考えないといけないという気がする。	14番の事務局対応に同じ。
17	引地委員	(適正な資源循環が確保された社会の長期的サブタイトル) (適正な資源循環の確保等の短期的サブタイトル) 長期として「ごみゼロ社会」、「ごみのない社会」。これを実際出来るのか、どうすれば可能になるのかを見て、26年度の方向でのサブタイトルに、もう少し具体的にどう示すか。 低炭素社会等の基本的なものは長期サブタイトルで良い。 ごみゼロ社会は非常に難しい問題で、いかに減量化するか、いかに資源化するか、そのためにはゴミを適正に分別することが重要。進んでいる地域は分別が非常に徹底してやっている。資源循環も石油・石炭から再生可能な資源をもっと有効に使えないのか。適正な資源循環は、そういうことにつなげないと30年後に実現が難しい。 そういう意味で26年度までの方向性には、なるべくこう取り組めば少しずつそういう方向を目指せる、そういう発想で接していくのが望ましい。	14番の事務局対応に同じ。
18	長澤委員	(心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式が定着した社会の長期的サブタイトル) 「自ら行動する」ことが必要である。つまりは、個人が心の豊かさということに対して自立をしていくと、そういう人間性の確立がないと行動様式、生活様式が定着した社会というのはなかなか実現出来ないと思う。	個人が自ら環境保全活動を実施している状態を「賢いライフスタイルの確立」として、「賢いライフスタイルの確立による環境に負荷をかけない社会の実現」として整理する。
19	長澤委員 (書面による意見)	(心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式が定着した社会の長期的サブタイトル) ・ひとりひとりが行動し、その環(わ)を広げる	18番の事務局対応に同じ。

番号	質問者	内 容	事務局対応
20	大越委員	(心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式が定着した社会の長期的サブタイトル) 「もったいない」は大事なキーワードには違いないが、それだけでは駄目な気がする。	「もったいない」を含め、もっと広く環境保全活動が行われている社会のイメージとして、「賢いライフスタイルの確立による環境に負荷をかけない社会の実現」として整理する。
21	長澤委員	(自然循環の保全の短期的サブタイトル) 4年後の平成26年は目の前であり、非常に具体的な例示を入れれば良い。 ・自然環境の保護と適正な利用 (審議会、書面による意見)	今回の長期の社会の実現にあたっては、施策をバランス良く展開する必要があることから、短期のサブタイトルは長期の「～社会を目指して」とする。他の短期サブタイトルも同じく整理する。
22	長澤委員	(適正な資源循環の確保等の短期的サブタイトル) ちょうど今、入口に入っているので、4年後、福島県が独自の低炭素社会への取組みを実践・先導していくという中では、やはり低炭素社会への転換だと思う。3Rとか省資源・省エネ、その他はこの低炭素社会に包括されると思う。	再生可能な資源の地域内での利用やバイオマス系循環資源の利用などは、低炭素社会に向けた取組みや廃棄物の減量化に繋がることから、低炭素社会と3Rなどを合わせたイメージとして、「地域循環の形成による低炭素社会を目指して」として整理する。
23	長澤委員 (書面による意見)	(適正な資源循環の確保等の短期的サブタイトル) ・低炭素社会への転換	22番の事務局対応に同じ。
24	長澤委員	(心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式への転換の短期的サブタイトル) 「賢いライフスタイル」。 「もったいない」は前回は議論に議論を重ねて、そして、強引に計画に入れ込まれたという経過がある。	委員の意見を踏まえ、「賢いライフスタイルの確立による環境に負荷をかけない社会を目指して」として整理する。
25	長澤委員 (書面による意見)	(心の豊かさを重視した賢い生活様式及び行動様式への転換の短期的サブタイトル) ・賢いライフスタイルが確立し、自然と人にやさしい社会	24番の事務局対応に同じ。